

経済同友 10

October 2012
No.750

Contents

■特集	
IPPO IPPO NIPPONプロジェクト 02 ～被災地の人づくり、産業活性化へ向けた 復興支援プロジェクト～	
■Doyukai Report	
第2回 会員懇談会 11 公正取引委員会委員長の 10年を振り返って	
竹島 一彦氏 公正取引委員会 委員長(開催時)	
■Seminar	
第1198回会員セミナー 13 「経済大国としてのインドネシアの可能性」	
佐藤 百合氏 日本貿易振興機構(JETRO)アジア経済研究所 地域研究センター長	
第1199回会員セミナー 14 「自然と文明 一人間は何処から来て、何処へ行くのか」	
竹村 真一氏 京都造形芸術大学教授/Earth Literacy Program 代表	
■Column	
巻頭言 岡本 圀衛 01 「相互理解の下で議論を深める」	
リレートーク 長瀬 朋彦 10 「純粋持ち株会社による企業経営」	
Global View 原田 泳幸 15 「グローバル競争を戦う」	
コペンハーゲン通信 17 「グリーンランドが注目されています!」	
私の思い出写真館 宇治 則孝 18 「スーパーハイビジョンとオリンピック」	
新入会員紹介 16	

今月の表紙:世界の文様シリーズ

【日本／紅葉青海波】

せいがいは、同心の半円を連ねた文様。舞臺の装束に使われた文様。ササン朝ペルシアの文様が中国を経て伝わったといわれています。

巻頭言

副代表幹事
財政・税制改革委員会 委員長

岡本 圀衛

日本生命保険
取締役会長



「相互理解の下で議論を深める」

東日本大震災を受け、日本の抱える問題はより幅広くなり、複雑化・深刻化している。そうした中で、私自身の意見を求められることも多いのだが、どんな主張にも賛否両論があり、いつも頭を悩ませている。そもそも私自身の中にさえ、「経済界として」「日本生命として」「岡本個人として」など立場により意見の葛藤があるのだから、万人が納得する「究極解」は存在しないと開き直るべきかもしれない。ただ、私が考えをまとめる上で心掛けていることは、異なる立場(主張、世代)の間での「相互理解」と「幸福のバランス」という点だ。

例えばエネルギー政策。私は、経済立国たる日本において、安定的・経済的なエネルギー供給は不可欠であり、原発を選択肢から排除することは不可能との立場だ。もちろん、この考えには異論もあろう。地震が多いこの国での安全管理や、出口のない使用済み核燃料処理の問題を棚上げにして、「今の生活を維持するため」と原発を使い続けることは、将来世代へのツケ回しにすぎない、と。一方、現時点で「原発ゼロ」の決断は、原子力にかかわる技術開発や人材育成を途絶えさせ、廃炉や使用済み核燃料処理といった現存する問題の解決をより困難にする。

また、経済成長と財政再建の問題もしかりである。私は、現在の危機的な国家財政とソブリン・リスク(*)にかんがみれば、健全な経済成長の土台として、財政再建が喫緊の課題と考える。一方、今のままでは日本経済は立ち行かず、デフレ脱却・震災復興のためには、適切な政策を迅速に実行する必要があることも理解している。ただし、公費投入による景気刺激について、目先の成長にとらわれ財政に過度な負担を掛けることは、やはり将来へのツケ回しに他ならず、若者の未来を束縛する。

成熟した今の日本社会では、価値観の多様化と利害関係の固定化が進み、さまざまな立場の人々が攻守相乱れて自己主張する。また、声の大きい意見が必ずしもマジョリティーではないという事実も、見逃されがちだ。しかし、声高に自己主張を続けることが、議論の本質ではない。自分と異なる意見に耳を傾け、もう一方の見方を自らの中に取り入れてみる。一つひとつ副作用を考え、バランスに配慮することが、今、極めて重要だ。

大震災後の対応で証明したように、慎み深さや和の精神は、世界に誇るべき日本の美德だ。性善説に過ぎるかもしれないが、相互理解を深めることで、必ず結論に近づけるはずだと信じている。

*ソブリン・リスク: 国家(ソブリン)に対する信用リスク。国債や政府機関債が債務不履行に陥る可能性のこと。